

TWEED STUDY COURSE VIDEOを視聴して

この度は、貴重な機会を頂き、心より感謝申し上げます。どのビデオもとても分かりやすく、大変勉強になりました。Dr.Herbert Klontzや清水典佳先生の講義はタイポドン実習の前に受けたかったと同期で口を揃えて言っています。もし、それが可能だったのであれば、より理解しながら実習を行えたのではないかと思っています。

以前Pre-Tucsonコースのご案内を頂いた時から興味はあったのですが、ツーソンから先生を招いて講義をすると伺ったため、英語が上達するまで自分には理解するのが困難だと思い、受講をためらっておりました。今回、講座の流れや同時通訳の講義の感覚などを知ることができ、COVID-19の感染が落ち着き、Pre-Tucsonコースが再開した折には、ぜひ参加させていただきたいと思っております。私事ではございますが、日本大学歯学部を卒業したため、ホームページの写真を拝見し、大変懐かしい気持ちになりました。

プロファイルの評価について、〇〇-lineだけでなく、口唇の厚さや独自の計測項目など様々な方法があり、大学に在籍していなくても臨床研究をされている先生方が多くいらっしゃることに驚きました。

臨床を始めて1年余りになりますが、口元の突出感を主訴に来院された患者様において、骨格も歯軸も標準的で、口元の突出感も著しくはなく、鼻が低いことによりE-lineに対して口唇が突出していました。シンフィシスが薄かったため、上下顎便宜抜歯を行った場合にも上下顎前歯を後退させることができないと判断し、矯正治療を行っても患者様の満足のいくプロファイルが得られるかわからないと説明したところ治療を断念されました。先生方の症例報告でもプロファイルが改善しきらなかった患者様が多くいて、矯正治療に過度の期待を持っている患者様への説明は大切だと改めて感じました。

下顎の残余成長のある骨格性II級の小児に対して、バイトプレートによる咬合挙上を行い下顎の前下方への成長を期待する方法は知っていたのですが、mandibular responseという言葉は初めて耳にしたため、mandibular responseの効果を与えるにはどうしたらよいのかなどを詳しく知りたいと思いました。

私は叢生および上下顎前突のため上下顎便宜抜歯を伴う矯正治療を受けました。パソロジカルな問題として口呼吸と舌癖があったため、高橋滋樹先生の『側貌の改善と呼吸、舌との関連』は特に興味深く視聴させていただきました。

今後も学べる機会があればいろいろなことを吸収していきたいです。

Tweed Study Course Video感想

この度は貴重な口演を拝見でき、大変勉強になりました。誠にありがとうございました。Tweed-Merrifieldの治療法に関しては入局後のタイポドント実習にて学んではいたしましたが、理解不十分な点が多く、清水先生の解説はとても分かりやすかったです。できることならばタイポドント実習の前に聞いておきたかったな、というのが正直な感想です。また、日常臨床ではTweed-Merrifield治療法を用いた症例を見る機会が少なく、実際の患者さんの症例を見ることができたのは大変貴重でした。適切なアンカレッジプリパレーションとヘッドギアの使用が達成されれば歯科矯正用アンカースクリューを併用しなくとも十分な臼歯の固定ができる、そしてこれだけ側貌の改善が可能なのだと、驚きました。側貌の評価、分析、症例の振り返りに関しても拝見いたしました。Eラインや鼻唇角の評価はルーティーン的に行っていましたが、鼻の高さやオトガイの突出の個人差から、口元を引いた方が良い症例なのか？維持か？口元を出しても良い症例なのか？というのは判断に迷うことが多々ありました。側貌の評価は客観的な評価が難しい症例もまれにあり困ることもありました。なんとなく、鼻が高いから、オトガイが出ているから、と判断していたところが藤崎先生のNaso PL distanceという評価項目だと理想的な側貌とされる基準範囲が定量化、明確化しこれからは評価の際に使用させていただきたいです。また、野村先生が口演してくださっているTotal Chin thickness、Oclusal planeのコントロールに関しても治療方針の立案や治療経過重ね合わせの際に注目してみようと思います。Eラインなどの側貌の評価は人種によっても差異があるため、実際に治療を行った日本人の症例を見ることができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。

Tweedプレッソンコースを視聴して

上岡先生にTweedプレッソンコースのオンライン開催を聞き、今回視聴させていただきました。

クロイツ先生のTweed法における顔貌についての講義はこれまでの矯正における顔貌分析について利便性、正確性などの面から分析されており、改めてTweed法における考え方について理解することができました。

清水先生の講義は大学院に入学してtypodontを行いました。当時テキストを読んでいてニュアンスが理解しにくい部分を改めて解決することができました。1st,2nd,3rd order bendについてはよりイメージがしやすくなったと感じました。

また、ご自身でされておられるケース発表に関しては、先生それぞれが症例に取り組む際に注意している点、そしてケース終了後の振り返りは自分の臨床経験では得られない実感を伴った講演をしていただき、非常に勉強になりました。

コロナウイルスの影響で勉強会など参加がしにくい状況になりましたが、今回のような学習する機会を教えていただいた野村先生には改めて感謝申し上げます。

Tweed学会の感想

- ・ 1年次に行ったタイポドント実習では目の前のことに精一杯で、深く理解できず進めていた点が多くあったと思いました。今回改めてこのような機会を設けていただき、矯正治療のメカニクスや歯の移動時における配慮などさまざまな工夫を行うことの大切さを考えさせられました。
- ・ 側貌の改善を目的とした治療方針のたてかた、評価方法を改めて学ばせていただきました。側貌を改善しきれなかった例も大変参考になり、今までの治療方針を見直すきっかけにもなりました。とても勉強になり感謝しております。
- ・ Tweed治療による歯の移動のメカニクス及び、治療前後での軟組織側貌の変化を説明していただき、最終的な咬合だけでなく軟組織側貌を基準にした評価方法に関して今一度、軟組織評価の重要性を認識させていただきました。有難うございます。
- ・ 基本的なワイヤーベンディングを動画で再度確認することができました。なかなか落ち着いてお手本となるベンディングを見ることができないので、有意義な体験となりました。今後の臨床に活かしていこうと思いました。
- ・ 抜歯症例でのTweed治療方法が動画付きで拝聴できてとてもわかりやすかったです。Tweedの歴史を詳しく知れてよかったです。
- ・ 今回勉強させていただいたことを、今後の矯正科医人生に活かしていこうと思います。
- ・ 今回とても勉強になりましたので来年もこのような機会がありましたら、お声かけいただければ幸いです。

Tweed矯正歯科研究会大会を視聴して

この度は、貴重なお話を聴かせていただきありがとうございました。

Tweed法に関しては、大学院1年目のタイポドント実習で学んで以来であったので、とても勉強になりました。

Tweed法では軟組織の評価を非常に大切にしていることがわかりました。普段、治療計画を立てる際に軟組織の評価もしておりますが、治療前後での変化をよりしっかりと考慮し、実際に治療を進めていくことが重要であると再確認させていただきました。その中で、Z-angleによる評価の有用性を感じました。そして、注意点として日本人の基準は欧米人のものとは異なるということです。これはZ-angleだけでなく、他の計測値にも当てはまることであるので、日本人と欧米人の骨格的な差異は常に念頭において検査、分析、診断をしなければならないと感じました。

また、側貌をより良いものにするためには、矯正治療中の垂直的なコントロールが重要であることを学びました。特に上顎前突や、上下顎前突の際は下顎が時計回りの回転をしないように、今後、細心の注意を払いながら治療を進めていきたいと思えます。

さらに、今回様々な症例を拝見させていただき、驚いたのは歯科矯正用アンカースクリューを使用せず治療を行っていた点です。歯科矯正用アンカースクリューは非常に便利であり、自分が診断を立てる際には歯科矯正用アンカースクリューに頼った治療方針を立ててしまいがちです。しかしながら、アンカースクリューが生着しない場合、そのプランは成り立たないものになるので、Tweed法のヘッドギアを用いた治療は非常に参考になりました。

矯正治療には、様々な分析法や治療法があり、まだまだ一つずつ学び、技術を身に付けていかなければならないと思えます。

最後になりませんが、今回このような貴重な機会を与えていただき、誠にありがとうございました。今後もよりよい矯正歯科医になれよう努めてまいりたいと思えます。

第14回日本Tweed矯正歯科研究会大会を受講して

この度はTweed矯正研究大会という貴重な公演を受講する機会を与えてくださった先生方に感謝申し上げます。私は今年矯正科へ入局した大学院一年目であり、この講義を糧に矯正学という非常に難解で奥が深い分野を学んでいく上での礎とさせていただきたいと思えます。今年度のはじめ半年間は実際の臨床に参加していく上での基礎を学んできました。矯正治療を行う上で、実際にどのように分析し、それに対する治療目標をどのように立て、どのようなメカニズムで歯を動かしていくのかという基礎として、Tweed矯正の理論を学び、typodontを用いたTweed矯正の実践を経験しました。この半年学んできたTweedの矯正理論に加えて、今回の講演を通して実際の症例報告等を交えて再度さらに深く学ぶことができ、理解を深めることができました。今回の公演で、特に印象に残ったことにつきまして以下に述べさせていただきます。側貌の評価についてZ-angle（FH平面とZ-line;軟組織Pogと上唇または下唇の再突出点を結んだ線のなす角）を用いた側貌の評価を用いることを強調されていました。Z-angleを用いることで、非常にシンプルに側貌を評価することができ、角度を見ることでその側貌を改善すべきなのかどうかを判断することができる。また、Z-angleは歯の移動に伴う軟組織の変化を定量的に示してくれる。そして、側貌の改善のためには前後的な問題だけでなく、垂直的な高さをコントロールが必要である。垂直的なコントロールはレベリングのステップとAngle Class IIを是正するステップで失われやすいことは、typodont実習で大白歯の挺出や下顎の切歯が唇側傾斜してしまい、咬合平面が崩れた経験から特に注意してコントロールする必要があると感じました。

講演の中で日本人が理想的であると感じる側貌は、観察者の年齢によって変化することが挙げられており、若年者ほどE-lineに対して口唇がマイナスの位置にある方がよく、特に女性の側貌に関してはその理想的なマイナスの値がより大きい位置にあるとのことでした。治療計画を立てる上で最終的な側貌の位置を決める際に、患者が若年者であった場合は、若年者における理想の位置を考慮してE-lineより口元を引く必要はあるのでしょうか。この場合、将来的に理想と感じる側貌はより口元がE-lineに近いものであるため、理想からずれてしまい、またほうれい線が深くなる要因となる可能性があるのではないかと考えました。側貌の目標に関しては若年者であるかどうかによって基準を変化させる必要はないのではないかと考えております。

Typodontでの矯正治療実習で最も難しいと感じていたのが、アーチフォームの形成でした。理想とするアーチフォームをどのように設定していいのかがわからず、step毎にアーチフォームを大きく修正する必要があり、歯に対して無駄な動きを加えてしまっていました。今回の講演の中で、治療初期の段階から歯槽の形にあったアーチフォームを形成しておくことで、最終的に理想的な歯列弓形態が得られ、長期の安定性にも寄与することを学ぶことができました。

今回はコロナ禍ということもあり、Webでの参加となりましたが、実際のプレッソコース等に参加する機会がございましたら、ぜひより深く学びたいと感じました。この度は大変貴重な講演を数多くご掲示いただきありがとうございました。

日本tweed矯正歯科研究会 口演ビデオを拝見して

この度、上岡教授より口演ビデオについて教えていただき、拝見させていただきました。
口演内容は、私が入局初期にタイポドント実習で行った内容と重なるものがあり、改めてTweed治療法の各ステップを行う意味や治療の流れについて学ぶことができ、大変勉強になりました。特に治療のステップごとに図解が添えており、解説とともに図をみることにより理解しやすかったと感じています。また、矯正治療による歯の移動と得られる側貌の変化については、私も普段のプログラムリストやVTO作成時に前歯の牽引量を設定する上で悩まされる点の一つであり、大変興味深い口演でした。若年者では口元の突出感の評価が厳しい傾向にあるという報告は、今後の前歯の位置の設定に非常に参考になると感じました。また、口元の突出感の評価において、E-lineやnasolabial angleの評価だけでなく、Z angleの重要性についても再認識することができ、今後の評価で取り入れたいと感じました。理想的な側貌の範囲について具体的な数値も挙げてくださっていたので、今までに作成したVTOの予測でも評価を行い、今後の設定にも生かしたいと思います。芸能人の側貌と治療結果の側貌を比較した口演についても興味深い結果が得られており、今後の側貌の評価や治療で活かす事のできる内容であると感じました。側貌の評価は個人差が大きいものであることから、一般的な評価と自分の感じ方の差を知る事も今後の臨床で重要であるという事も感じました。また、口元の突出感の改善において成功例だけでなく、改善しきれなかった症例についても具体的な例を挙げて説明されており、今後注意すべき事項についても知る事ができました。臨床経験の浅い私にとって、日々の臨床においてどのようなことに注意し、治療を進めれば良いか不明瞭でしたが、反省点を挙げていただく事もよってそういった注意点についても学ぶ事ができました。また、数値もよる側貌の評価だけでなく、口唇閉鎖不全の改善という機能的な面での評価についても、治療を進める上で参考にさせて頂きたいと感じました。

この度は興味深い口演について教えてくださり、ありがとうございました。この度学ばせていただいた知識を生かし、今後も日々精進して参りたいと思います。

日本Tweed矯正歯科研究会大会口演配信の感想

この度は日本Tweed矯正歯科研究会大会の口演配信を拝見させて頂き、誠にありがとうございます。

岡山大学矯正科に入局後、タイポドントによる手技練習がありました。その頃は英文を読みながらどのようなメカニズムでどのように治療を進めていくのか四苦八苦しながら行っていた記憶があります。今回、配信動画を拝見し矯正治療におけるTweed治療法のメカニズムが概要を通してとても分かりやすく説明していただいたおかげですんなりと理解することができ、また実際の症例を通しての動画もあったためより臨床的な動き、手技を理解することができました。

また側貌に関する評価も日本人における良好な範囲を知ることができ、また前歯をどれほど下げれば口唇がどれほど下がるかを論文のデータからまとめた結果を知ることができ、実臨床でもすぐに応用できることが多く勉強になりました。また歯科矯正用アンカースクリューを用いた場合は引きすぎることがあるということも勉強になりました。

今回の口演配信を見させていただき、今まで学んだ知識の再確認や新しく学べた事が多く本音を言えばもっと早くに見ることができればという気持ちがありますが、このタイミングでも見させて頂くことができ大変ありがたく思いました。

この度はこのような機会を頂きありがとうございました。